



M2M/IoT 委員会特別賞
富士通株式会社

「FUJITSU IoT Solution UBIQUITOUSWARE FEELythm」

ドライバーの眠気を検知し、安全運転を支援

ドライバーの人手不足や高齢化もあって、自動車の安全運行に向けた企業の管理責任が高まっている。車載機の進化で運行状況は把握しやすくなっているが、事故が起きる前に注意喚起することは何より大切だ。

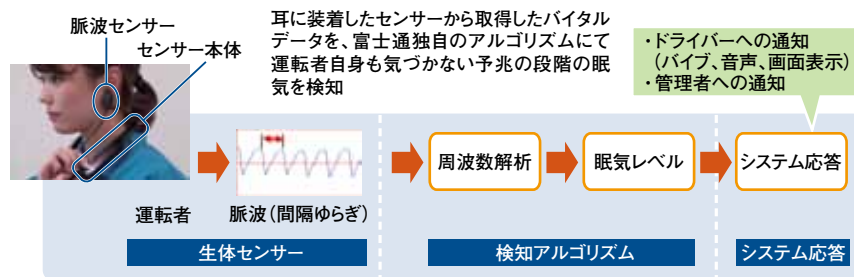
富士通が開発した、ドライバーの安全運行を支援するウェアラブルセンサー「FUJITSU IoT Solution UBIQUITOUSWARE FEELythm」は、ドライバーのバイタルデータから漫然・眠気の予兆を検知すると、セン

サー本体のバイブレーションが振動し、ドライバー本人に通知する。

また同時にスマートフォンや車載機を通じて遠隔地の運行管理者にもリアルタイムで通知する。通知を受けた運行管理者は、的確に休憩等の指示を出すことができ、ドライバーと運行管理者双方に有効な運行マネジメントを実現可能とする。

さらに、運行中に得られたバイタルデータと運行データを蓄積し、データの傾向から運行の経過時間や時刻、勤務日ごとのリスク分析ができ、眠気発生の潜在的要因を見つけ、疲労軽減や作業効率の改善などにつながるソリューションである。

図 眠気検知システムの概要



- ・自動キャリブレーションにより、ドライバーに合わせて眠気判定基準値を自動で設定
- ・自動学習機能により、個人差や日々の状態による精度のばらつきを解消し、より正確に個人の感覚に近づいた検知を行う